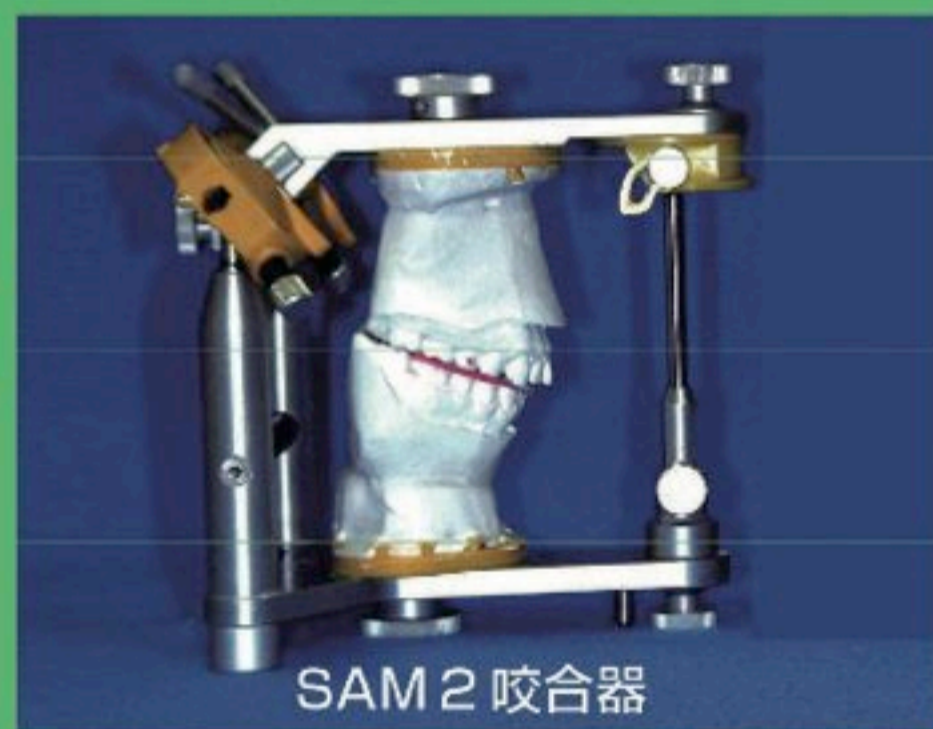


咬合再構成の顎咬合学

歯科衛生士と行なう咬合治療

仮着・リマウント・咬合調整はなぜ要らないか
歯周治療とインプラント補綴成功の咬合学

著 小笠原 久明



筆者の咬合再構成法の特徴

- ①咬合高径を10mmなど適切に高めて回復する。
- ②診断用Wax Upを行なわない。
- ③側方誘導路を回復して、Immediate Side Shiftをゼロにする。
- ④矯正治療を行ない、切歯路を回復する。
- ⑤Hinge AxisではなくHorizontal Axisを採用する。
- ⑥Quick Pantographを採用して、水平基準面であるAxis Orbital Planeから顎路角を実測する。
- ⑦咬合処方を採用して、SAM 2 咬合器を使う。
- ⑧Silicone印象でなく、全寒天印象を使う。
- ⑨生理的咬合や保護的咬合ではあるが、順次誘導臼歯離開咬合を採用する。
- ⑩Wax Cone Techniqueで歯冠製作する。
- ⑪仮着をまったくしない。
- ⑫セメント合着する際にリマウントを必要としない。
- ⑬歯冠修復後にスプリントを必要としない。
(本文より)

A4判 カラー 144ページ 定価8,925円(本体8,500円+税)

ISBN978-4-901894-79-1